

学校教育目標	「チャレンジ！ なかよし！ 進んで学ぶ 東の子」										
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで学び続け、考えを深め豊かにする子どもを育てます。(知) ○ 自他の違いを認め合い、心豊かに生きる子どもを育てます。(徳) ○ 心も体も健康な生活を実践し、自他の生命を大切にすることを育てます(体) ○ 地域とのつながりを大切にし、他者と協働して共に生きる子どもを育てます(公) ○ 持続可能な社会の実現に向けて行動し、多様な変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。(開) 										
学校概要	創立	52	周年	学校長	山本 佐知子	副校長	佐藤 万里子	2	学期制	一般学級：12	個別支援学級：4
	児童生徒数	384		人	主な関係校：高田中学校、高田小学校						

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	高田中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
社会(地域)理解力・自己理解力 コミュニケーション 人間形成 社会(地域)参画 計画実行・問題解決力 自己調整	高田中学校 高田小学校 高田東小学校	【9年間で育てる子ども像】 ○自らすすんで学び続ける子 ○仲間と協力してよりよい社会の実現を目指す子 ・「社会と自分を知り、自分らしく生きようとする子どもの育成」をブロック研究テーマとした授業づくりの推進 ・独自教科「たかた科」で育成を目指す資質・能力の明確化と「全体計画」「学年カリキュラム」の作成と活用 ・「情報活用能力の育成」に向けた小中一貫教育の推進 ・小中校長会、担当者会、全体会での子どもの姿をもとにした協議やICT活用を通じた小中一貫教育の推進

中期取組目標	「子ども一人ひとりの個性や多様性を尊重し、つながりを大切にした教育」を目指します。 ○子どもたちが、主体的に学習に取り組む授業づくりを進めます。 ○子どもたちが、安心して自分を表現できる学級風土づくりを進めます。 ○子どもたちが、安全に、健康の保持増進と体力向上を目指して学ぶ健康教育を進めます。 ○子どもたちが、持続可能な社会の実現に向かったり、自分の夢や目標に向かったりする取組を推進します。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①子どもが生活経験や既習事項と学びを結びつけ、友達と意見を交わすことで学びを深める授業実践を、校内重点研究を中心に推進する。 ②学校全体で授業改善を推進するために、「YOKOHAMA st☆dy Navi」のデータから特に「メタ認知」や「対話的な学び」に関する項目に着目し、学力や学習意識の変容・課題を共有する。
徳 人権教育	①挨拶や正しい日本語を使うことを価値づける講話や指導法を専任を中心に発信し、特に登校班指導の場で子どもの意識啓発に全職員で取り組む。学校評価アンケートで挨拶に関する調査を行い、保護者にも啓発する。 ②学校行事や日常の学習で、学年間での交流を積極的に推進する。ICTを活用したアンケートで子どもの声を取り上げ、主体的に取り組む人権啓発活動を進める。
体 健康教育	①年間を通して『体力づくり』を中心としたあそび・運動を委員会活動で提案・実施し推進する。②給食週間に加え、パクパクだよりを活用したクイズ大会を実施し、食に対する意識向上を継続的に進める。③けんこう会議で他クラスと意見交換の場を設け、リモート活用などで、一人ひとりの健康に対する考えが学校全体の意識向上につながるようにする。
公開 自分づくり教育	①「たかた科」の学習を中心に、子ども自身が感じる地域社会の印象や疑問、願いを学習や活動に取り入れ、得た知識や経験をもとに解決策を考え、地域社会に進んで働きかけようとする姿を目指す。 ②地域の教育力や外部の教育プログラムを活用し、体験から学び、思いや考えを様々な方法で表現する機会を増やす。他者との関わりを通じて、自己有用感を高めるようにする。
いじめへの対応	①生活アンケートを毎月19日前後に実施し、全担任が意識的に取り組む。得られた子どもの声や意見は学年内で共有するだけでなく、諸会議を通じて全体に周知する。 ②YPやICTで得られたデータをもとに、児童の生活や状況を多角的に分析・協議する。スタンダードを含め、いじめ未然防止に向けた協議を毎回の対策委員会で積極的に行う。
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチームに教科主任が引き続き関わり、授業づくりや授業改善を推進する。特に授業展開や評価方法においては、より実践的な授業力の向上を目指す。 ②校務分掌や学年・学級業務で運用する各データシステムについて、業務の分担・処理・管理にかかる時間に差が出ないよう、業務効率の向上や改善に寄与するデータシステムの取捨選択を学校全体で取り組む。
特別支援教育	①日常の児童情報を記録ノートを活用して積極的に記録し、必要に応じて毎月の児童理解の時間(職員会議)で全校で共有する。 ②特別支援教室「たかせミ」の取り組みを年に数回専任便り等で周知し、児童・保護者の理解を深める。個別の指導計画を全職員が簡単に閲覧できるシステム構築を目指す。
地域学校協働活動	①子ども達が地域社会に積極的に関わろうとする意識を高めるため、たかた科の学習を積極活用する。地域の人々に子ども達の願いや思いを届ける活動を、学校地域コーディネーターやひがバル、教育ボランティアと連携して進める。 ②学校運営協議会では、教職員や子どもの声が反映された学校評価や各アンケート調査結果を活用し、具体的な取組実績や課題点を情報発信する。
GIGAスクール構想	①打ち合わせの場等で、校内でのGIGA運用についての実態や展望を学年やブロック・全体で振り返る。教職員も子どもも「賢い使い手」になれるよう、ルールやモラル、学習段階や発達段階に応じた適切な活用について協議する。 ②子どもが学び方を適切に選択し、学習目標の達成や評価規準に迫れるようなICT機器での意図的・計画的な学習支援・授業改善を推進していく。
教育環境整備	①財務管理の最新情報を取り入れた研修を継続し、公金・準公金の適正処理を全職員で徹底する。 ②授業計画段階で安全管理マニュアルを活用し、安全・安心な運用を継続する。子どもが遊具や教具を大切に扱い、活動中のリスク想定や回避の意識を高めるため、安全教育を授業計画に盛り込む。
担当	総務部・保健安全部